A photograph of a seminar room. A woman in a grey suit stands at the front, presenting to an audience seated in rows of chairs. A large projection screen at the front displays the text "Agriculture Co-creation Seminar". The room has large windows with blinds and red curtains. The overall scene is dimly lit, with the screen providing the main light source.

Agriculture Co-creation Seminar

農業共創ハブの御紹介

JICA筑波センター研修業務課 片野 健太郎

本日本お伝えしたいこと、、、

2

JICA筑波では研修員・研修コースと、 様々な共創の「場」を設けています！

研修（例：コメ・園芸作物分野）	対象国
「稲作技術向上」 「天水稲作のための稲栽培・種子生普及員産及び品種選定技術」 「アフリカ農業機械化促進」（1～2か月間）	タンザニア、エチオピア、ガーナ、カメルーン、コートジボワール、ギニアなど
「市場志向型農業振興」 「小規模農家の生計向上のための野菜栽培技術」	フィリピン、スリランカ、ネパール、ナイジェリア、マラウイなど

研修員は、
途上国の行政官、研究者、農業普及員など
⇒現地の「生」情報や課題を熟知している。
⇒現地の人脈を有している。

研修員は日本で途上国の「生」情報を持つ貴重な人材
JICA筑波はこのような人材が集まる場

農業共創ハブ

- ▶ JICA筑波のリソース（施設、研修員、立地）を活用し、農業技術・人材の共創拠点（農業共創ハブ）を創出する。

農業共創ハブの取組み

農業共創ハブ



1. 農業技術にかかるビジネスマッチング

- 1) 研修員と農業企業との意見交換会の実施
- 2) 製品や技術の展示紹介
- 3) 関連企業間の意見交換会の実施
- 4) 他事業実施者による取組紹介
⇒民間企業との結節点

- ✓ 民間企業・研究機関とJICA研修員のマッチング：13回32社
- ✓ 共創セミナー（展示会）：対面3回、オンライン1回（延べ30社）
- ✓ 展示：10社
→・JICAの民連事業への応募と採択（6件）
・モザンビークでの籾摺り精米機と石抜き機のデモ



2. 新規農業技術の研修事業への導入と外国人材受入支援

研修員、外国人材のための
新規農業技術の研修の場
⇒日本の技術と途上国のニーズ
との結節点

- ✓ e-kakashi、farmo、防虫ネットなど6件
- ✓ JIRCAS（国際農林水産業研究センター）・筑波機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）とのe-kakashiを用いた連携事業

3. 開発協力人材育成

JICA専門家・協力隊員のための
スマート農業等新規農業技術の研修の場
⇒途上国の課題への対応

- ✓ 実績：22回、延べ900名以上が参加
- ✓ 対象：直営専門家、開発コンサルタント
- ✓ 形態：座学+実習（JICA筑波の圃場・施設の活用）
- ✓ 企画：JICA（研修指導者、専門員）、コンサルタント持ち込み、研修委託先



病害虫診断



農業機械




植物病害診断



イネ移植方法

- 病害虫診断研修
- 農業機械
- イネ収量調査
- 水管理
- 土壌分析
- イネの種子生産のための移植方法
- スマート農業の現状と、データの利活用
- 圃場試験設計・AI生育診断研修
- 野菜栽培における育苗技術
- 植物病害診断の高度化と将来展望
- 農業用水を活用した小水力発電開発
- はじめての水文学
- 灌漑分野における人材育成の教育研修を見る
- 農業機械
- 未利用資源の堆肥化と生産物の流通まで
- 種子伝染性病害の国際的蔓延とその対策
- 協力分野における農業普及活動
- 精米工場における一般衛生管理
- スマート農業Day@JICA筑波
- 農業における脱炭素と有機農業
- Global warming and changes in the hydrological cycle)
- アフリカの農業分野におけるカイゼン手法の活用)



農業技術にかかるビジネスマッチング 取組み

- 共創セミナー
- 製品・技術の展示紹介
- 製品や技術のデモ
- 実証試験
- 研修員と企業との意見交換会

共創セミナーの開催

民間企業・団体等の海外展開に向けた、

- 情報収集・意見交換（共創）・ネットワーク構築の場の提供
- 民間企業・団体等の農業分野における製品・技術を紹介し研修員の学びの場とする。

1. 開催実績

開催回数 : **4回開催** (2021年から現在) ※2回/年 (春・秋頃) の頻度で継続予定

開催場所 : JICA筑波 スタディ棟・実習棟・圃場

参加者数合計 : **200名以上** (JICA研修員・留学生、民間企業、JETROなど)

出展企業合計 : **延べ30社** (民間企業・団体等)

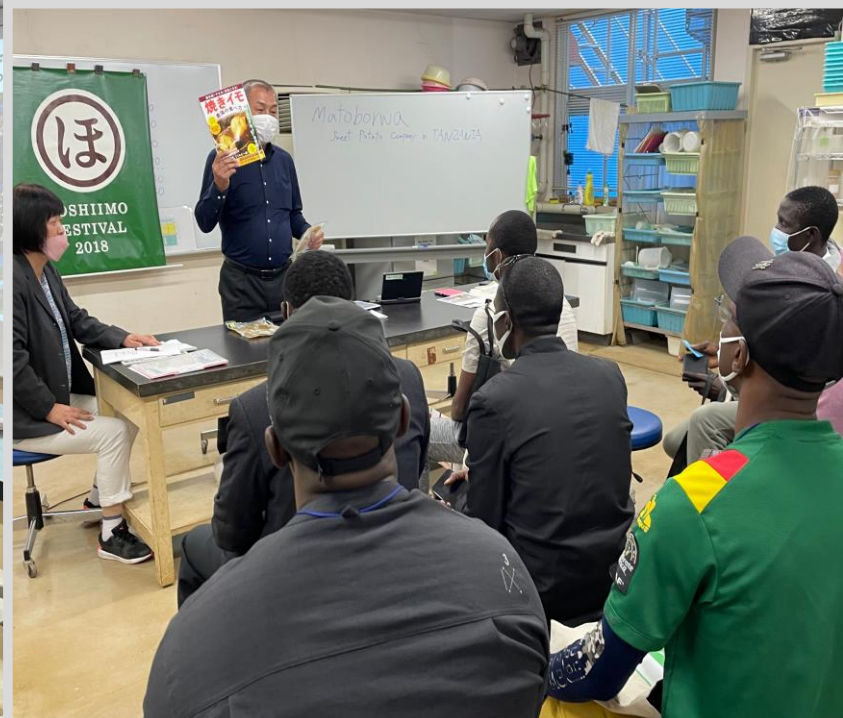
2. 「共創セミナー」概要 (直近)

日時 : 2022年10月22日 (土) 13:00~17:00

出展企業 : カンリウ工業株式会社、株式会社ケツト科学研究所、太陽油化株式会社、株式会社照沼、本田技研工業株式会社、NPO法人未来の担い手支援機構 (計6社)

参加者 : **約50名** (JICA研修員、留学生、官公庁および民間企業の方々)

「共創セミナー」(10/22実施)の様子



関係者の声（アンケート結果）

有益な情報
88.5%

- ウェブでは知りえない現地の動きや生の状況
- 各国の課題やニーズ
- 各国のスマート農業政策や社会実装の状況、重要なステークホルダ
- **農業機械の販路先**
- 海外で活躍する研修者等の情報
- アフリカ地域における農業就業形態・実証実験の手法
- 支援状況、JICA筑波の取組みの概要
- **研修員だけでなく協力できる日本の企業とも意見交換**できた。
- 海外の方と接する機会が少ないので、とてもいい刺激になった。**自分たちのプロダクトを肯定してもらい自信**がついた。

事業展開
42.3%

- タンザニア研修員から現地の農業機械販売会社を紹介いただき、①市場性等について意見交換実施。②農業機械代理店と商談。③デモ機を送付する方向で進めている。
- ミャンマーの実証パートナーの現場で、病理診断に活用できそうな画像が得られるか調査を継続。タンザニアの**留学生を通じて現地の金融専門家を紹介**、アフリカ諸国が参加するコミュニティで発表の機会を得た。
- 実証結果を基に、課題を見つけた。
- **JICA実証事業前に事前確認**ができた。
- **参加者にアンケート**を行い情報収集中。
- ブルキナファソを含む仏語圏アフリカでの商品登録手続きに関する情報を得た。コンゴの留学生から弊社の製品に興味があるとの話を聞き、現地での実証試験に向けてメール交換を継続中。
- **現地政府と打合わせ**を実施。
- 意見交換をした政務官とのやり取りから現地のニーズや情報を知ることにより自分たちの施策の中で生かしている。

製品や技術のデモ 事例紹介

⇒ 現地の「生」情報や課題を入手

⇒ 海外展開の足掛かりに最適



JICA 独立行政法人 国際協力機構

・ サイトマップ ・ よくある質問 ・ お問い合わせ

国際協力に参加したい方 ・ NGOの方 ・ 研究者の方 ・ メディアの方 ・ 企業の方 (民間連携) ・ 投資家の方

ホーム | JICAについて | 事業・プロジェクト | 各国における取り組み | ニュース | 国際協力・ODAについて

ホーム > JICA筑波 > 事業の紹介 > JICA筑波・農業共創ハブ > 最新ニュース > オオカミ型LED野生動物撃退装置「モンスターウルフ」実演を実施しました！

○ オオカミ型LED野生動物撃退装置「モンスターウルフ」実演を実施しました！

2022年8月22日

日本における野生動物による農作物被害額は161億円（令和2年度）に上ると言われています（農林水産省報告：令和4年6月）が、野生動物による農業被害は、日本のみならず、開発途上国でも課題となっています。しかし、知識や技術、資金の不足から、十分な対策が取られていない状況のため、来日中の研修員（普及員、行政官など）に野生動物の被害（獣害）対策を紹介することを目的に、2022年8月15日、翔プランニング株式会社（茨城県牛久市）のご協力の下、オオカミ型LED野生動物撃退装置「モンスターウルフ」の実演を開催しました。

- [野生動物撃退装置「モンスターウルフ」](#)（外部サイト）
- [【企業展示@農業共創ハブ】株式会社ウルフ・カムイ様（2022年2月8日）](#)

実演会では、まず初めに、翔プランニング株式会社より、「モンスターウルフ」の機能やその効果などについて説明を受けました。野生動物の天敵であるオオカミに模し、LEDの光と約90dBの大音量、また50種類以上の多数の威嚇音で威嚇する「モンスターウルフ」に、研修員の皆さんも興味津々。

当日は、アフリカ地域を中心に、30名ほどの研修員が参加しましたが、意見交換では、「ものすごいインパクトがある」、「頭だけではなく、足や体も動くと、更に効果が上がると考える」、「開発途上国では、盗難被害があり得るため、盗難しようとした際、アラームが鳴るなどの対策があると良い」といった感想や、「忌避効果の範囲は？」、「1体の価格は？」、「畑だけではなく、水田でも使用できるか？」、「（自国では、猿や鳥による被害が大きいが、）猿や鳥にも効果があるか？」、「近隣住民から騒音の苦情が来ないか？」といった質問が寄せられました。

JICA筑波では今後も、開発途上国の課題解決に繋がる日本の技術を紹介する研修を実施していきます。製品・技術の紹介にご関心をお持ちの方はぜひご連絡ください。

更新情報

イベント情報

トピックス

プレスリリース

「人」明日へのストーリー

事務所の紹介

- 所長挨拶
- JICA筑波施設紹介
- 施設利用のご案内
- JICA筑波パンフレット
- 環境への取り組み
- JICA筑波へのアクセス
- JICA筑波設立40周年
- [JICA筑波図書館「ライブラリーまつむら」のご案内](#)

事業の紹介

- 研修員受入事業
- 青年研修事業
- 国際理解教育／開発教育のためのプログラム
- JICA海外協力隊
- JICA筑波・農業共創ハブ
- NGO、自治体、サークル等団体の支援

製品や技術の実証試験 事例紹介

⇒筑波センターの施設を活用して実証試験・情報収集を実施可能！



蓄積された栽培データと環境データから栽培“レシピ”をつくり、栽培の判断をサポート

機能

- 温湿度、日射量、土壌温度、水深などの環境データの取得
- AIが品種ごとに作成した栽培レシピと環境データや作業記録を掛け合わせて、「今何をするべきか」を判断し、お知らせしてくれます。

効果

- 気象台予測や他社のシステムよりも正確に出穂日を予測！
- 出穂日から予測した収穫適期に収穫した場合、玄米収量や品質（登熟歩合）がアップしました！

今後

- より多く良いお米が取れるように今年度の結果を踏まえて来年度のレシピを作成。出穂期や収穫日予測アラートの精度を高める。
- 水管理アラート機能を使って、水資源をより細かく、効率的に。メタン削減にも貢献。（検討中）

● 開発途上国の農業開発課題の解決のために – JIRCASと筑波大学とICTの活用にかかる共同事業をスタートしました！

2021年6月21日

2021年6月

2021年5月、JICA筑波は、国立研究開発法人国際農林水産業研究センター（JIRCAS）と国立大学法人筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）と共同研究契約を締結し、ICTの活用にかかる共同事業をスタートしました。



研修員と農業企業との意見交換会

⇒ 「共創セミナー」以外でも個別に調整可能！

植物活性剤



アシストスーツ



課題別研修コース発表会
& 企業との意見交換会



意見交換会の開催実績：

民間企業との個別対応：9社

課題別研修の発表会・意見交換会：
アフリカ地域農業機械化促進コース
農業・農村DX/SFCコース

⇒意見交換会は随時個別に受付けています！
お気軽にご連絡下さい。

研修員リスト（例）

[JICA筑波・農業共創ハブ](#) | [JICA筑波 - JICA](#)

製品・技術の展示・メディア紹介

施設内の展示



最後に。。

➤ **共創セミナー**

⇒ **今後も2回/年で開催予定！**

➤ **展示紹介、デモ、実証試験**

➤ **意見交換会の調整**

⇒ **随時ご相談を受付けております！**

JICA筑波センター

「農業共創ハブ」担当者：片野健太郎

Katano.Kentaro@jica.go.jp

080-7106-9373

紹介YouTubeも是非ご確認ください！
リンクは参考配布いたします！



JICA筑波の施設紹介-イノベーションで開発途上国の課題解決を！「農業共創ハブ」

【参考配布】筑波センター施設概要（1）

➡ 建物：18,296.72m²

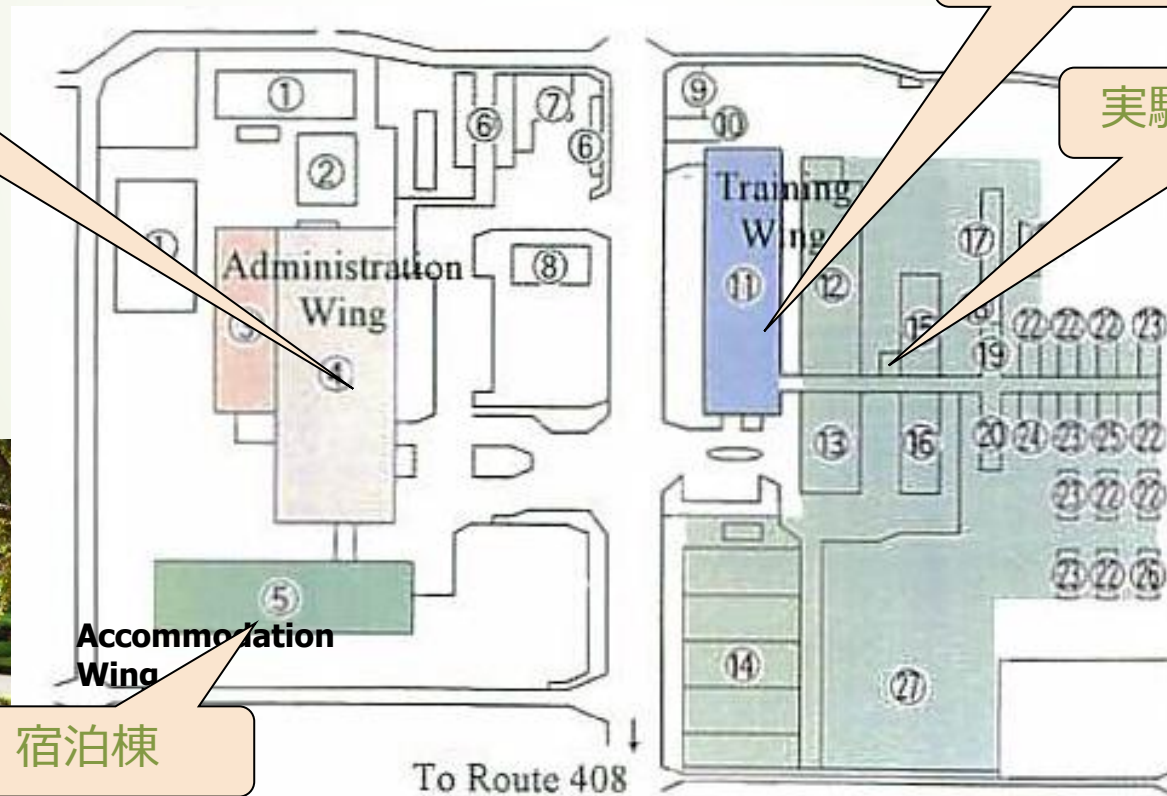
けやき棟、宿泊棟、スタディ棟、実験・実習棟、温室・網室等

➡ 講義室（5部屋）、講堂、体育館、食堂

けやき棟



宿泊棟



スタディ棟

実験・実習棟

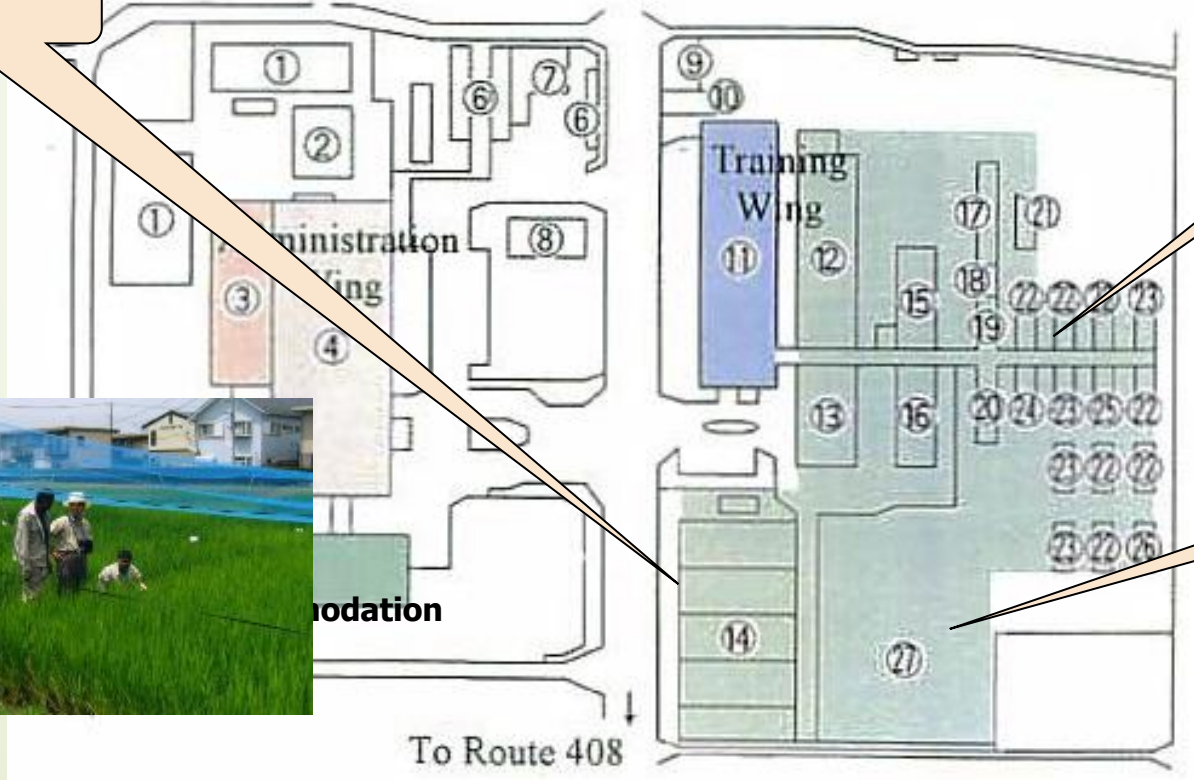


【参考配布】筑波センター施設概要（2）

- 敷地：48,388.9m²（水田2,100m²、畑6,300m²含）
左記以外に農業研修のため借地：水田6,458m²及び畑地27,000m²

実習用
温室・網室

水田



畑地



【参考配布】 JICA筑波センターの紹介HP・YouTubeなど

▶ ウィークリーACCS JICA研修員と日本企業の共創

[ウィークリーACCS JICA研修員と日本企業の共創 - YouTube](#)

▶ JICA筑波農業共創ハブ 施設紹介動画 (Youtube)。

<https://www.youtube.com/watch?v=H7UBdCN21dc>

▶ 共創セミナー (2021年11月13日開催) の動画

[【JICA筑波「農業共創ハブ」ニュース】留学生との「共創」セミナーを開催しました！](#)

【参考配布】人材育成について

● 専門家ブラッシュアップ研修

講義・実習を通じた専門家の知識のブラッシュアップを目的とした研修を実施。新しい技術に慣れ親しんでもらう場としても活用。過去のテーマは以下の通り。

病害虫診断

農業機械

収量調査

水管理

土壌診断

種子生産（一本植え）

スマート農業

施肥を主とした圃場試験設計法とスマート技術を活用した生育診断法

野菜栽培における育苗技術

植物病害診断の高度化と将来展望

灌漑分野における人材育成の教育研修を見る－マラウイを事例として

種子生産（異株抜き取り・交配実習）

農業用水を活用した小水力発電の現状と将来展望

種子生産（収穫）

地球温暖化と水循環の変化

未利用資源の堆肥化と生産物の流通まで

種子伝染性病害の国際的蔓延とその対策

協力分野における農業普及活動

精米工場における一般衛生管理（HACCP含む）

スマート農業Day

食味試験

農業×カイゼン

【参考配布】 農業共創ハブの取組み（実績値付）

1. 農業技術にかかるビジネスマッチング

- 1) 研修員と農業企業との意見交換会の実施
- 2) 製品や技術の展示紹介
- 3) 関連企業間の意見交換会の実施
- 4) 他事業実施者による取組紹介
⇒民間企業との結節点

- ✓ 民間企業・研究機関とJICA研修員のマッチング：13回32社
- ✓ 共創セミナー（展示会）：対面3回、オンライン1回（延べ30社）
- ✓ 展示：10社
→・JICAの民連事業への応募と採択（6件）
・モザンビークでの籾摺り精米機と石抜き機のデモ

2. 新規農業技術の研修事業への導入と 外国人材受入支援

研修員、外国人材のための
新規農業技術の研修の場
⇒日本の技術と途上国のニーズ
との結節点

- ✓ e-kakashi、farmo、防虫ネットなど6件
- ✓ JIRCAS（国際農林水産業研究センター）・筑波機能植物イノベーション研究センター（T-PIRC）とのe-kakashiを用いた連携事業



3. 開発協力人材育成

JICA専門家・協力隊員のための
スマート農業等新規農業技術の研修の場
⇒途上国の課題への対応

- ✓ 実績：22回、延べ900名以上が参加
- ✓ 対象：直営専門家、開発コンサルタント
- ✓ 形態：座学＋実習（JICA筑波の圃場・施設の活用）
- ✓ 企画：JICA（研修指導者、専門員）、コンサルタント持ち込み、研修委託先



病害虫診断



農業機械



植物病害診断



イネ移植方法

- 病害虫診断研修
- 農業機械
- イネ収量調査
- 水管理
- 土壌分析
- イネの種子生産のための移植方法
- スマート農業の現状と、データの利活用
- 圃場試験設計・AI生育診断研修
- 野菜栽培における育苗技術
- 植物病害診断の高度化と将来展望
- 農業用水を活用した小水力発電開発
- はじめての水文学
- 灌漑分野における人材育成の教育研修を見る
- 農業機械
- 未利用資源の堆肥化と生産物の流通まで
- 種子伝染性病害の国際的蔓延とその対策
- 協力分野における農業普及活動
- 精米工場における一般衛生管理
- スマート農業Day@JICA筑波
- 農業における脱炭素と有機農業
- Global warming and changes in the hydrological cycle)
- アフリカの農業分野におけるカイゼン手法の活用)